

# 見たせば 耳を澄ませば

女子大を出たばかりの五十九歳の「フレッシュウーマン」が新たな道を歩き出した。埼玉県の女子栄養大学を今春卒業した菊地景子さん。秋田市手形山南町。五十五歳で秋田市の聖霊短大に入学し、二年後に女子栄養大に編入。今年五月には管理栄養士の国家試験に合格し、潟上市昭和の介護老人保健施設で働いている。「立派な夢があったわけではない。その時々のお会いがあり、今の自分がある」。菊地さんは、自らを導いてくれた数々の出会いに感謝する。

菊地さんは高校卒業後、事務員などを務め、結婚後は二人の娘を育て

## 50代からのスタート

葉に、習い事でも始めようかと考えていた矢先、高校時代の恩師と偶然再会し、近況を話すと、こう勧められた。「だったら短大に入れば？」

料理教室から▽体に良くて、おいしいもの▽簡単にできる健康食などをテーマとした講習を求められることが多く、「独学ではなく、きちんと学んだ上で教えたい」と感じていた。娘と恩師に後押しされる形で、聖霊短大の健康栄養専攻への入学を決めた。

同短大に入ってみたものの、学友は娘よりも若

# 数々の出会いに感謝

る主婦業の傍ら、時々料理教室の講師を務めるなどしていた。もともと調理師の資格があったが、管理栄養士の資格取得に挑んだきっかけは「時間もあるんだし、勉強でもしてみたら」という娘の一言だった。

親の手を離れた娘の言

い人たち。「初めは緊張した」というが、持ち前の行動力と明るさで、たちまち打ち解けた。

**寸暇を惜しみ勉強**

十六年春に同短大を卒業し、女子栄養大に編入した。「順調に進めたのは教授や同級生のおか

げ」。友人と秋田市の県立図書館に通い、休館の日は県庁のホールでもノートを広げ、寸暇を惜しんで試験勉強した。

女子栄養大でも多くの友人と巡り合った。そこでも年齢の壁を打ち破った。授業が始まった日には、同じ志を持つ編入生

から「働くって大変だよ」「責任のある仕事なのに、まだまだ実力が伴わず悩んでるよ」との相談メールがしばしば届く。「自分も頑張らないと、思う」と菊地さん。友達との頑張りにはパワーをもらっている様子だ。

「今まで多くの人に支えられてきた分、できる範囲で恩返ししたい」という気持ちで働く毎日。やりたいことは次から次へとわいてくる。「人との出会いは何歳になっても楽しい。そこから多くのことを学ぶこともできる」と話す。

人生を楽しみたいと言う菊地さん。六十歳を目前に、将来について「すぐてきな老後を過ごしたい」と語る。若々しく働く菊地さんの「老後」はまだまだ先のことになりそう。

## 今春、大学卒業 管理栄養士に

同士で集まり、居酒屋で自己紹介をしながら単位取得について語り合った。公衆栄養や臨床栄養の実習、準備やレポートも、友人たちと協力し合っ

大学では、長期休暇以外には主婦業を一時休み、自宅を離れて一人暮らしをした。「学費もかかったし、わがままを言って通わせてもらった」と家族にも感謝する。休日に東京まで出て、友人と東京タワーや六本木ヒルズを見物したことも含め、「英語やパソコンが苦手で大変だったけど、とにかく

物事楽しむ姿勢で

現在勤務する潟上市の介護老人保健施設「ほのぼの苑」では、入所者の栄養改善のサポートなどをしていく。組織介護や福祉の現場は初めての体験。学生時代に学んだこと以外に、新たに習得し



デイサービスで利用者にケーキを取り分ける菊地さん（右から2人目）  
潟上市昭和の介護老人保健施設

読者の皆さんからの情報は社会部へ ☎018-888-1833 eメールshakaibu@sakigake.jp

住宅

二十

十五分

西目町海

ノ五四、

ん〇三〇

一部二階

方財を全

はなかつ

由利十

は、近所

ん宅の女

出てい

一一九

さんは妻

四人暮ら

は全員分

署で出火

ている。

大仙市

二十

五分ご

駒場字

伊藤十七

ら出火、

て三百ハ

焼した。

最大隠

父島

強い台

日、八